

三菱電機株式会社

三菱電機業務用エコキュート仕様書	仕様書番号	WYN48-1915-A-5-BS
------------------	-------	-------------------

ご使用先	殿	記号	
ご注文先	殿	電源	三相 200V 50Hz
弊社工事番号		始動方式	インバータ始動

形名	QAHV-N560C-HWP-BS	法定冷凍トン/台	4.8	※8	台数	
----	-------------------	----------	-----	----	----	--

		貯湯加熱運転			保温加熱運転		
		中間期	夏期	冬期	中間期	夏期	冬期
外気温	°C	DB:16, WB:12	DB:25, WB:21	DB:7, WB:6	DB:16, WB:12	DB:25, WB:21	DB:7, WB:6
加熱能力	kW	40.0 (56.0 ※1)	40.0	40.0	15.8	15.8	15.8
入水温度	°C	17.0	24.0	9.0	60.0	60.0	60.0
出湯温度	°C	65.0	65.0	65.0	73.3	73.3	73.3
温水量	L/min	11.9	14.0	10.2	17.0	17.0	17.0
消費電力	kW	9.76	9.52	11.1	10.3	9.13	11.8
運転電流	A	31.1	30.3	35.3	33.3	29.5	38.0
力率	%	90.6	90.6	90.6	89.0	89.0	89.0
エネルギー消費効率		4.10	4.20	3.61	1.54	1.73	1.34

圧縮機	11kW×1 (全密閉形)	付属品	-	
送風機	0.46kW	塗装色	マンセル 5Y 8/1 近似色	
水側熱交換器	銅管コイル式	騒音※2	dB	56 <58>
空気側熱交換器	プレートフィンチューブ式	最大運転電流	A	54.8
冷媒制御	電子式膨張弁	始動電流	A	-
冷媒	CO2 (R744) 6.8kg	製品質量	kg	380
冷凍機油	PAG (ホリアルキレング リコル) (チャージ済)	運転質量	kg	385
電熱器 (圧縮機ケース)	45W×1			
電熱器 (凍結防止)	12W×2			
ポンプ	0.1kW			
制御方式	運転制御 リモートコントロール 運転モード切換 リモートコントロールまたは別売貯湯量センサによる自動制御 能力制御 圧縮機インバータ制御 出湯温度制御 ポンプインバータ制御 除霜制御 ホットガス			
		外気温度	°C	-15~40
		出湯温度 ※3※6	°C	55~90
		入水温度 ※7※9	°C	5~63
		入水圧 ※4	kPa	0~500
		許容機外揚程	kPa	77 (at17L/min)
安全装置	高圧圧力開閉器, 過電流保護機能 (圧縮機), 吐出ガス温度センサ, 巻線保護サーモ (送風機), パワーモジュール温度センサ	水質 ※5	「システム設計上の留意点」参照	

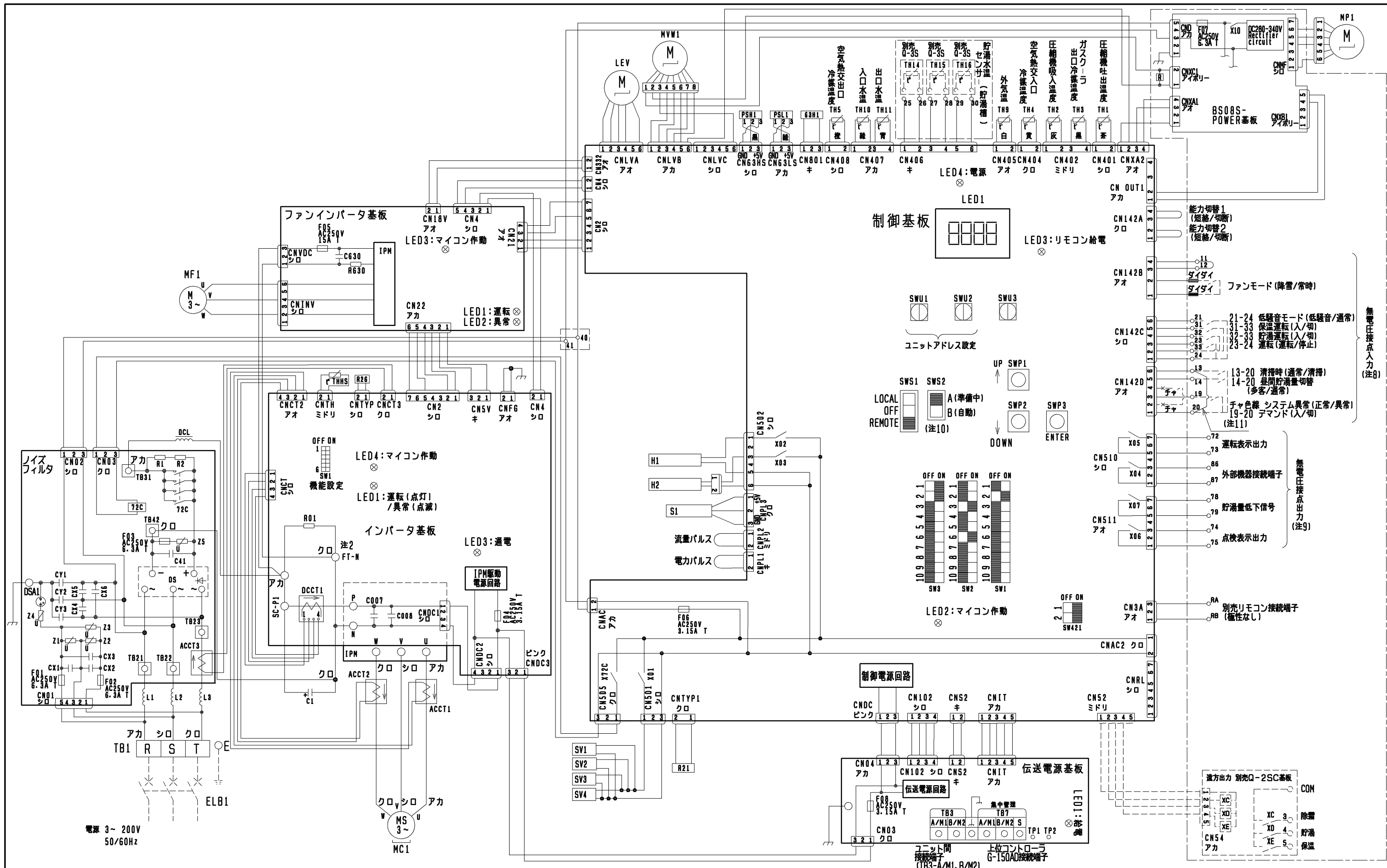
- ※1 ()の加熱能力は制御盤の設定により「最大能力」を選択した場合の値を示します。このときの性能については技術資料を参照ください。
- ※2 騒音値は中間期貯湯加熱運転時ユニット正面から1m離れて、1.5m高さで測定した無響音室基準の値を示します。< >は工場出荷状態での冬期の値を示します。実際の据え付け状態では、周囲の騒音や反響などの影響を受け、表示値より通常3~5dB大きくなります。
- ※3 実際の出湯温度は外気温、入水温度により目標温度に対し±5°C程度前後します。また入水温度が30°Cを超える場合、機器保護のため自動的に出湯温度を抑制した運転を行う場合があります (外気20°C以上で出湯温度上限70~90°C)。
- ※4 受水槽より加圧ポンプで給水ください。水道には直結しないでください。
- ※5 水質基準を外れるとスケール付着、腐食等の不具合を生ずる恐れがあります。
- ※6 推奨貯湯温度は65°Cです。65°C以上の貯湯は対象給湯システムが火傷のおそれがない仕様である場合に限りです。実際の貯湯可能温度は貯湯運転開始時の貯湯槽内残湯量及び残湯温度の影響により設定値にならない場合があります。
- ※7 保温運転モードを使用するシステムにおいて貯湯槽湯温低下に伴う再加温運転開始温度 (保温温度設定値) 上限は61°Cです。
- ※8 《重要》高圧ガス保安法において第二種製造者に該当し、使用開始には都道府県知事への高圧ガス製造届けが必要です。
- ※9 入水温度上昇速度が瞬時 5K/min以上あるいは連続 1 K/min以上となるシステムには適用できません。
- ※10 粉雪 (パウダー状) が降る地域 (北海道・東北・中部内陸 (長野)) においては制御箱内への雪侵入を防止するため、別売の防雪キット (SF-1K) を取付ください。

特記事項	外形図	WKC94G412
	電気配線図	WKC94G438
	システム設計上の留意点	WYN48-1913
	耐塩害仕様書	WYN57-1022

除外工事	据え付け、基礎工事、給排水工事、電気接続工事、漏電遮断器、仕切り弁、その他本仕様書に明示なき事項。
------	---

安全に関するご注意

- ①冷温水に水以外の熱媒を使用しないでください。火災や爆発の原因となることがあります。
- ②次の環境で使用しないで下さい。感電や火災の原因となることがあります。
 - 引火性、可燃性ガスの雰囲気 ●揮発性ガスの雰囲気 ●腐食性ガスの雰囲気 ●潮風の直接当たる場所
- ③冷温水は飲用・食品製造用には直接使用しないでください。健康を害する可能性があります。ご使用前に、「取扱説明書」「据付説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください



電源 3 ~ 200V
50/60Hz

※能力モード表

モード	入力
最大能力運転	能力切替1が「切断」
省エネ運転1 (出荷仕様)	能力切替指令1、2ともに「短絡」
省エネ運転2	能力切替1が「短絡」 能力切替2が「切断」

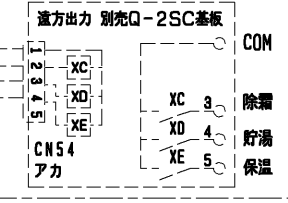
製品の仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。

	作成日付 ISSUED	改定日付 REVISED	TITLE
DIM. mm	11-02-25	14-05-19	三菱電機業務用エコキュート電気配線図 QAHV-N560C-HWP (-BS, -BSG)
SCALE NTS	三菱電機株式会社		DRW. NO. WKC94G438

REV. H	PAGE 1 / 2
--------	------------

無電圧接続点入力 (注8)

無電圧接続点出力 (注9)



外部入出力

貯湯水温センサ別売Q-3Sによる内部システム制御使用の場合

信号の種類	接続要否※1	接続口形状	端子番号 または線色	名称	説明	入		切	
						入	切	入	切
通信	△	端子台	RA, RB	別売リモコン接続端子	各種設定, 運転操作	-	-	-	-
	○	端子台	A/M1, B/M2 (TB3)	複数通信用端子	貯湯量情報の親子間通信	-	-	-	-
700V入力	○	端子台	25-26, 27-28, 29-30	貯湯水温センサ	貯湯水温検知	-	-	-	-
接続入力	△	端子台	23, 24	運転	運転・停止・異常リセット(運転→停止→運転)	システム稼動(運転)	システム停止	-	-
	△	配線切断し接続	茶	システム異常	給水系の断水等の外部異常を入力	正常	異常	-	-
	△	端子台	13, 20	清掃時	貯湯槽清掃時の熱源機強制停止	通常	強制停止(自然凍結防止含む)	-	-
	△	端子台	14, 20	昼間貯湯量切替	昼間の目標貯湯レベル切替	多客モード	通常モード	-	-
	△	端子台	21, 24	低騒音モード	騒音値抑制のための最大容量制限	予め設定した容量を上限に運転	通常	通常	-
	△	ギボシ端子	橙	ファンモード	ファンへの積雪防止(接続入力選択の場合)	降雪: ファン連続運転	常時: ファンは圧縮機に連動運転	-	-
	△	端子台	19, 20	デマンド	最大容量制限(時刻デマンド併用)	予め設定した容量を上限に運転	通常	-	-
	△	端子台	72, 73	運転表示出力	システム状態表示	システム稼動中(運転指令ON中)	システム停止中	-	-
	△	端子台	74, 75	点検表示出力	システム点検表示	異常	正常	-	-
	△	端子台	78, 79	貯湯量低下信号	他熱源への切替えや貯湯槽緊急給水等に使用	水位低下	通常水位	-	-
接続出力	△	端子台	86, 87	外部機器接続ON指令	水回路の三方弁切り替え用等	ポンプ残留運転, 保温運転, 凍結防止運転時	それ以外	-	-
	△	端子台(別売Q-2SC)	COM-3	除霜	運転モード表示	除霜運転中	それ以外	-	-
	△	端子台(別売Q-2SC)	COM-4	貯湯	運転モード表示	貯湯運転中(除霜中含む)	それ以外	-	-
	△	端子台(別売Q-2SC)	COM-5	保温	運転モード表示	保温運転中(除霜中含む)	それ以外	-	-
	△	端子台	72, 73	運転表示出力	システム状態表示	システム稼動中(運転指令ON中)	システム停止中	-	-
	△	端子台	74, 75	点検表示出力	システム点検表示	異常	正常	-	-
	△	端子台	86, 87	外部機器接続ON指令	水回路の三方弁切り替え用等	ポンプ残留運転, 保温運転, 凍結防止運転時	それ以外	-	-
	△	端子台(別売Q-2SC)	COM-3	除霜	運転モード表示	除霜運転中	それ以外	-	-

※1. ○必須, △通常使用, △選択使用。接続入力を使用する場合, 全号機に独立した接続を各々接続する必要があります(渡り配線不可)。

現地システム制御の場合

信号の種類	接続要否※1	接続口形状	端子番号 または線色	名称	説明	入		切	
						入	切	入	切
通信	△	端子台	RA, RB	別売リモコン接続端子	各種設定, 運転操作	-	-	-	-
接続入力	○	端子台	23, 24	運転	運転・停止・異常リセット(運転→停止→運転)	システム稼動(運転)	システム停止	-	-
	△	端子台	31, 33	保温運転	保温(圧縮機)運転指令	最大水流量で加熱運転	圧縮機停止	-	-
	○	端子台	32, 33	貯湯運転	貯湯(圧縮機)運転指令	水流量制御し設定出湯温度で加熱運転	圧縮機停止	-	-
	△	配線切断し接続	茶	システム異常	給水系の断水等の外部異常を入力	正常	異常	-	-
	△	端子台	13, 20	清掃時	貯湯槽清掃時の熱源機強制停止	通常	強制停止(自然凍結防止含む)	-	-
	△	端子台	21, 24	低騒音モード	騒音値抑制のための最大容量制限	予め設定した容量を上限に運転	通常	通常	-
	△	ギボシ端子	橙	ファンモード	ファンへの積雪防止(接続入力選択の場合)	降雪: ファン連続運転	常時: ファンは圧縮機に連動運転	-	-
	△	端子台	19, 20	デマンド	最大容量制限(時刻デマンド併用)	予め設定した容量を上限に運転	通常	-	-
	△	端子台	72, 73	運転表示出力	システム状態表示	システム稼動中(運転指令ON中)	システム停止中	-	-
	△	端子台	74, 75	点検表示出力	システム点検表示	異常	正常	-	-
接続出力	△	端子台	86, 87	外部機器接続ON指令	水回路の三方弁切り替え用等	ポンプ残留運転, 保温運転, 凍結防止運転時	それ以外	-	-
	△	端子台(別売Q-2SC)	COM-3	除霜	運転モード表示	除霜運転中	それ以外	-	-
	△	端子台(別売Q-2SC)	COM-4	貯湯	運転モード表示	貯湯運転中(除霜中含む)	それ以外	-	-
	△	端子台(別売Q-2SC)	COM-5	保温	運転モード表示	保温運転中(除霜中含む)	それ以外	-	-
	△	端子台	72, 73	運転表示出力	システム状態表示	システム稼動中(運転指令ON中)	システム停止中	-	-

※1. ○必須, △通常使用, △選択使用。接続入力を使用する場合, 全号機に独立した接続を各々接続する必要があります(渡り配線不可)。

注意事項

- 注1. ----- 破線部はオプション部品、現地手配品および現地工事を示します。
- 一点鎖線内はサブボックス内を示しています。
- ファストン端子はロック機構付き端子です。取り外す際は端子中央のつまみを押しながら取り外してください。取り付けた後は確実にロックがかかっていることを確認してください。
- 現地接続端子の記号は下記に示します。
○ 端子台、≡ コネクタ、× 短絡線を切断し接続、■ ギボシ端子(現地手配:オス端子φ3.96)
- 運転指令の入力信号は入力方式として別売リモコン、無電圧接点入力のいずれかを個別に選択できます。
- 低電圧機外配線(無電圧接続入力、リモコン配線、ユニット間接続端子、上位コントローラG-150AD接続端子)は、100V以上の配線と5cm以上離して配線をしてください。
同一電線管、同一キャブタイヤケーブルでの配線は基板損傷につながりますので絶対にしないでください。
- 制御配線にキャブタイヤケーブルを使用する場合、次の配線は個別のケーブルを使用してください。
同一キャブタイヤケーブルの芯線を使用すると誤動作し、故障の原因となります。
(ア)別売リモコン配線
(イ)無電圧接続入力配線
(ウ)無電圧接続出力配線
- 無電圧接続入力(DC12V回路受け)に関する制約事項
・接点にはDC12V、5mAで使用可能なものを使用してください。
- 無電圧接続出力はAC200V 1A以下で使用ください。
- SWS2は試運転前の無通水状態やバルブ閉状態において自然凍結防止動作してポンプが損傷することを防止するため出荷時は「A(準備中)」に設定してポンプ・圧縮機を強制停止しております。試運転時に制御箱内基板スライドスイッチSWS2を「B(自動)」に切り替えてください。
- 13, 20端子台へ配線接続する場合は短絡線を取外して接続してください。

電気工事

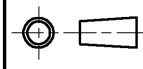

項目	形名	QAHV-N560C-HWP
電源配線太さ※1		38mm<78mm迄>(22mm<48mm迄>)
過電流保護器	A	100
開閉器容量	A	100
漏電遮断器	※5 mA	高調波対応形 感度電流100(0.1S)
電源トランス容量	kVA	21/21
リモコン配線	太さ	0.3~1.25mm(総長250m以下)
	推奨線種	VCTF, VCTFK, CVV, CVS, VVR, VVF, VCT
	ユニット間M-NET配線	太さ 0.3~1.25mm(総長120m以下)
ユニット間M-NET配線	※3	推奨線種 VCTF, VCTFK, CVV, CVS, VVR, VVF, VCT
	太さ	1.25mm以上
上位コントローラG-150AD接続配線	推奨線種	シールド線 CVVS, CPEVS, MVVS
		伝送線用給電ユニットから各ユニットおよびシステムコントローラまでの配線長は最大200m
水位センサWS配線	※4	太さ 0.3~1.25mm(20m以下)
		推奨線種 VCTF, VCTFK, CVV, CVS, VVR, VVF, VCT
外部入力配線太さ		0.3mm以上
外部出力配線太さ		1.25mm
接地線太さ		φ2.6以上
進相コンデンサー	容量	μF
	電線太さ	kVA
		取付不可 ※2

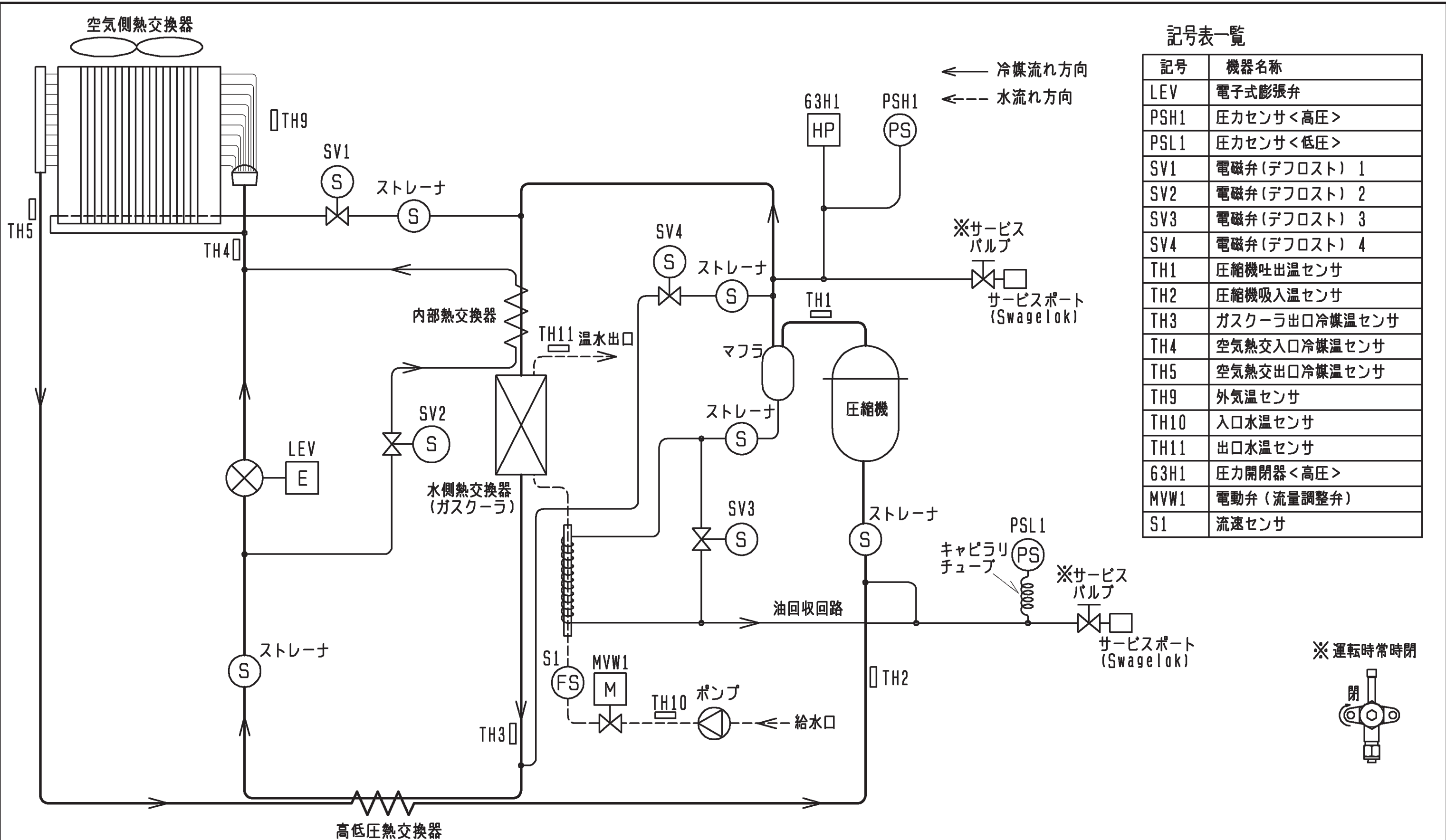
- 金属管配線の場合を示します。
- 電動機に進相コンデンサーを取付けないでください。
取付けるとコンデンサーが破損し、火災につながるおそれがあります。
- 近隣に工場等ノイズ発生源がある場合、総長が120mを超える場合はCVVSまたはCPEVSのシールド線(総長200m以下)を使用してください。
- 近隣に工場等ノイズ発生源がある場合、CVVSまたはCPEVSのシールド線を使用してください。
- 電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。
なお、漏洩電流は配線長、配線経路、また周囲に高周波を発生する設備の有無等により異なります。

記号説明

記号	説明
ACCT1	
ACCT2	電流センサ
ACCT3	
C	コンデンサ(電解)
DCCT1	電流センサ(直流電流)
DCL	直流リアクトル
DS	ダイオードスタック
F01	
F02	
F03	
F04	
F05	ヒューズ
F06	
F07	
F08	
H1	電熱器(圧縮機ケース)
H2	電熱器(凍結防止)
IPM	インテリジェントパワーモジュール
LEV	電子膨張弁
MC1	圧縮機用電動機
MF1	送風機用電動機
MP1	ポンプ用電動機
MVW1	流量調整弁
PSH1	高圧圧力センサ
PSL1	低圧圧力センサ
R	抵抗(12V電源安定化)
R21	抵抗(機種識別)
R26	抵抗(機能設定素子)
SV1	電磁弁(デフロスト)1
SV2	電磁弁(デフロスト)2
SV3	電磁弁(デフロスト)3
SV4	電磁弁(デフロスト)4
S1	流速センサー
THHS	サーミスタ(インバータ放熱板温度)
TH1~5, 9~11	サーミスタ
63H1	高圧圧力開閉器
72C	電磁継電器(インバータ主回路)
※TH14, 15, 16	サーミスタ(水温)
<ELB1>	漏電遮断器

記号欄の※は別売部品、< >は現地手配品です。

	作成日付 ISSUED	改定日付 REVISED	TITLE 三菱電機業務用エコキュート電気配線図 QAHV-N560C-HWP(-BS, BSG)
	DIM. mm		
SCALE NTS	 三菱電機株式会社		DRW. NO. WKC94G438 REV. H PAGE 2 / 2



記号表一覧

記号	機器名称
LEV	電子式膨張弁
PSH1	圧力センサ<高圧>
PSL1	圧力センサ<低圧>
SV1	電磁弁(デフロスト) 1
SV2	電磁弁(デフロスト) 2
SV3	電磁弁(デフロスト) 3
SV4	電磁弁(デフロスト) 4
TH1	圧縮機吐出温センサ
TH2	圧縮機吸入温センサ
TH3	ガスクーラ出口冷媒温センサ
TH4	空気熱交入口冷媒温センサ
TH5	空気熱交出口冷媒温センサ
TH9	外気温センサ
TH10	入口水温センサ
TH11	出口水温センサ
63H1	圧力開閉器<高圧>
MVW1	電動弁(流量調整弁)
S1	流速センサ

	作成日付 ISSUED	改定日付 REVISED	TITLE 三菱電機業務用エコキュート冷媒回路図 QAHV-N560C-HWP (-BS, -BSG)		
	DIM. mm	13-04-02	DRW. NO.	REV.	PAGE
SCALE NTS	三菱電機株式会社			WKC94K656	1/1

製品の仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。

システム設計上の留意点

適用機種 QAHV-N560C-HWP

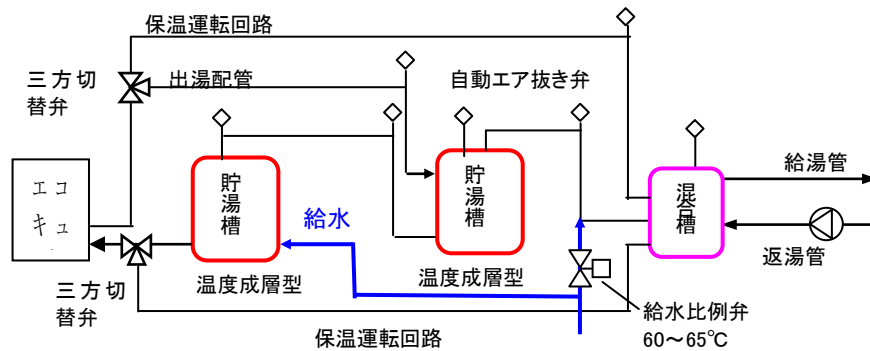
重要 本製品の使用者は高圧ガス保安法において第二種製造者に該当し、使用開始には都道府県知事への高圧ガス製造届けが必要です。具体的手続き方法については施工業者にご相談ください。また、冷媒ガスの圧力を受ける部分について切断や溶接を伴う修理を行う場合は、都道府県へ「高圧ガス製造施設等変更届」を提出し、資格(冷凍空調施設工事事業所)のある事業所に依頼する必要があります。

1. 対象システム

注意 本製品は水道直結使用できません。全ての給水(給湯回路混合栓への給水含む)は受水槽または補給水槽より供給してください。

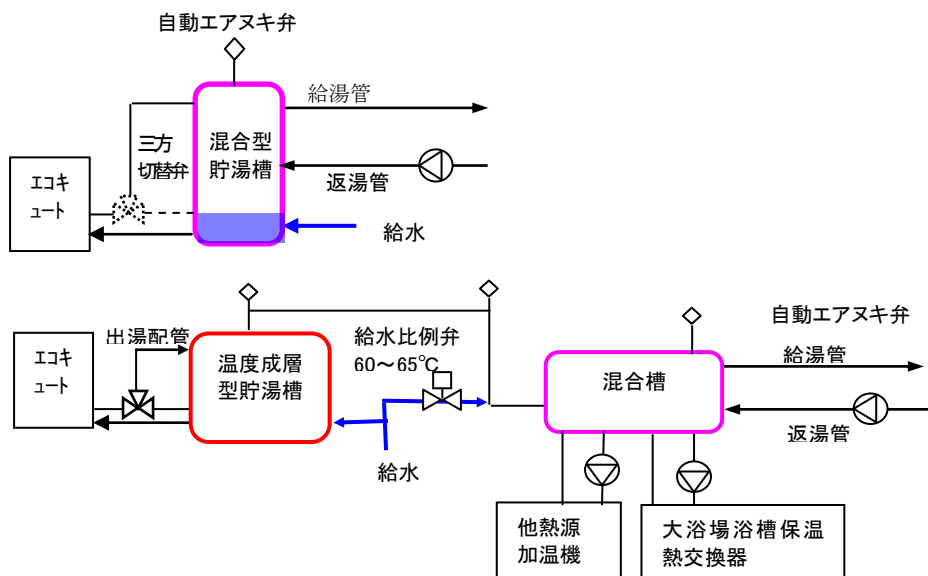
本製品は以下に示すシステムへの使用を想定しています。

(1)エコキュートの貯湯・保温運転モードとも使用の回路例



図は貯湯槽2基仕様の例を示す

(2)エコキュートの貯湯運転モードのみ使用の回路例



三方切替弁は貯湯運転中以外は停止中も含め貯湯槽下方側に繋がるようにします。停止中の自然凍結防止運転および貯湯運転後のポンプ残留運転は貯湯槽下方との間で循環し、温度成層が崩れることを回避します。

2. 据付場所に関する留意点

ユニットは、下記条件を考慮して据付場所を選定してください。

- ・ 他の熱源から直接ふく射熱を受けないところ。
- ・ ユニットから発生する騒音が隣家に迷惑のかからないところ。
- ・ 強風が吹きつけないところ。
- ・ 本体の質量に十分耐えられる強度のあるところ。
- ・ 運転時には、ユニットからドレンが流れますのでご注意ください。
- ・ 可燃性ガスの発生、流入、滞留、漏れのおそれがある場所では、火災をおこす危険性がありますので設置しないでください。
- ・ 酸性の溶液や特殊なスプレー（硫黄系）を頻繁に使用する場所は避けてください。
- ・ 油、蒸気、硫化ガスの多い特殊環境では使用しないでください。
- ・ 別売防風フードの取付けについて
除霜を確実にを行うため、日平均外気温が -5°C 以下となる日がある地域では下記いずれかの防風処置を実施してください。
 - (a) 別売防風フード(吸込)の取付け
 - (b) 現地にて防風壁の設置等による防風処置
- ・ 別売防雪キットの取付けについて
粉雪(パウダー状)が降る地域(北海道・東北・中部内陸(長野))においては制御箱内への雪侵入を防止するため、別売の防雪キット(SF-1K)を取付けてください。

3. 配管設計における注意事項

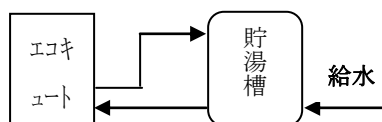
(1) 一般事項

- ・ ストレーナ…エコキュートには異物混入防止のため水入口直近部にストレーナ(60 メッシュ以上)を設けてください。
- ・ フレキシブルジョイント…エコキュート出入口部に振動伝播防止のためフレキシブルジョイントを設けてください。
- ・ 仕切弁、排水弁…貯湯槽の清掃、エコキュート内の熱交換器洗浄、リニューアル機器入替え等のサービスに必要な仕切弁、排水弁を設けてください。
- ・ 配管・保温材質…出湯配管には耐熱 90°C 以上の材質(SUS管、銅管、架橋ポリエチレン管、ポリブテン管等)を用いてください。入水配管には最高入水温度で使用可能な材質を用いてください。また、全ての配管にはSUS、銅、樹脂など耐食性の材質を使用してください。
- ・ ドレン配管…エコキュートのドレン配管は冬期ドレン水凍結防止のため勾配を大きくとり水平部の距離を短くしてください。
- ・ 冬期凍結防止…冬期自然凍結防止のため寒冷地においては全ての現地配管に凍結防止ヒータを設けてください。

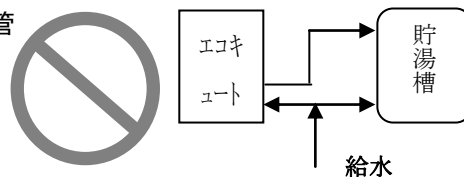
(2) 給水配管

給水配管は必ず貯湯槽に接続してください。

正しい配管



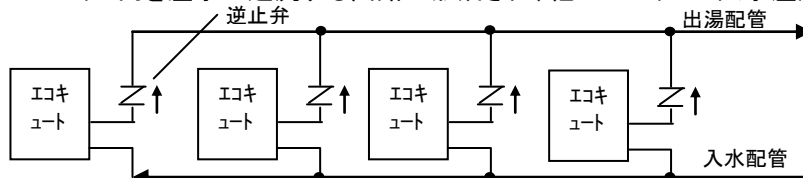
禁止配管



エコキュート入口配管に接続すると運転中の入水温度急変(瞬時 $5\text{K}/\text{min}$ 以上あるいは連続 $1\text{K}/\text{min}$ 以上)により異常停止(高圧、ガスクーラ出口温度)や出湯温度低下を生じます。

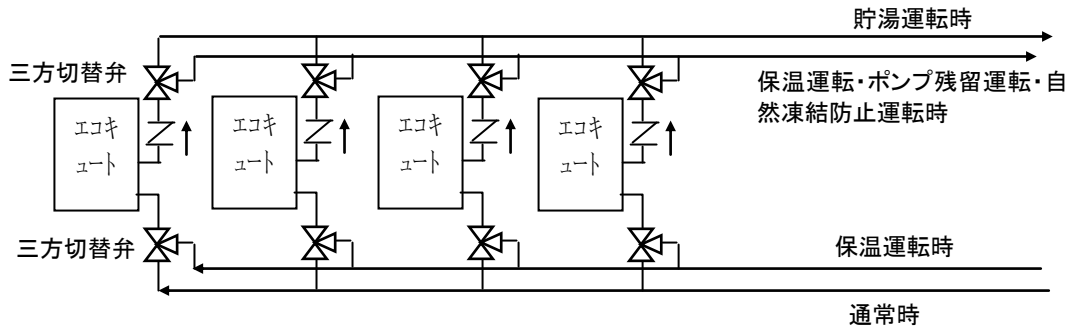
(3) 出口逆止弁(エコキュート複数台設置時)

複数台接続時には各ユニット出口配管に逆止弁を設けてください。逆止弁がないと一部ユニットの除霜や異常停止時にそのユニット内を温水が逆流する回路が形成され、他のユニットが入水温度急変により異常停止します。



(4) 三方切替弁(エコキュート複数台設置時)

三方切替弁は原則ユニット毎に設けてください。異常停止時やサービス停止時のポンプ残留運転は該当ユニットのみ行います。

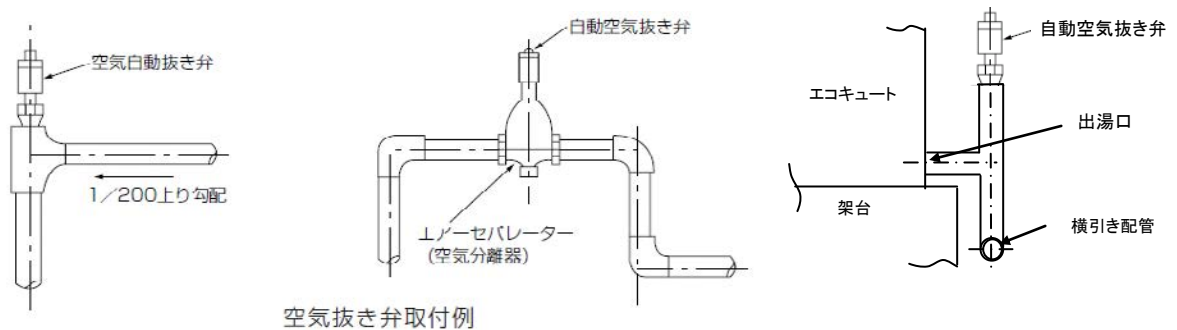


(5) 自動エア抜き弁・エアセパレータ

密閉システムには配管の最高位に自動エア抜き弁を設ける必要があります。またエコキュート出湯配管には水中に溶存できなくなった空気の気泡が存在するため、下り配管が発生する場合はその手前で配管を分岐して配管を立上げ、その先端に自動空気抜き弁を設ける必要があります。

またエコキュートの台数が多い場合は発生する気泡も多いため、分岐管や自動空気抜き弁の処理速度が追いつかない可能性があり、空間容積を確保できるエアセパレータが必要となる場合があります。配管中に空気がたまりができないように空気抜き弁に向かって 1/200 以上の上り勾配をつけると共に、空気がたまる可能性がある部分には必ず自動空気抜き弁を設けます。

注意 横引き配管が万一エコキュート出湯口より低くなってしまう場合は、ユニット直近で配管を立上げ自動エア抜き弁を設けてください。



空気抜き弁取付例

(6) 安全弁

密閉システムでは水回路破裂防止のため安全弁(逃し弁)を設ける必要があります。また、吹出した水(または温水)が通行人等に掛かることがないように逃し配管を設ける必要があります。

(7) バキュームブレーカ

階下に給湯する場合は貯湯槽に必ずバキュームブレーカ(負圧弁)を設ける。設けないと想定以上の給湯負荷発生時に給水量が追いつかず貯湯槽内が負圧になり貯湯槽が変形します。

階上給湯の場合も給湯ポンプを有する場合は、同様の現象となるため貯湯槽に必ずバキュームブレーカ(負圧弁)を設ける。

(8) 膨張タンク

$$\text{必要容量 } V_t = K \cdot V_s / (1 - P / (P + \Delta P))$$

K・・・水の膨張係数

V_s・・・システム水量

P・・・システム圧力(補給水圧力+循環ポンプ揚程+大気圧)

ΔP・・・システム最高使用圧力と運転開始時の圧力差

=安全弁設定圧力×0.9-(補給水圧力+循環ポンプ揚程)

この値が小さいと必要膨張容量が大きくなる

システム温度 (T) °C	補給水温度 (t) °C						
	5	10	15	20	25	30	35
30	0.0034	0.0032	0.0026	0.0017	0.0005		
35	0.0048	0.0046	0.0040	0.0031	0.0019	0.0005	
40	0.0066	0.0063	0.0057	0.0049	0.0037	0.0023	0.0006
45	0.0084	0.0082	0.0075	0.0067	0.0055	0.0041	0.0025
50	0.0104	0.0103	0.0099	0.0092	0.0082	0.0070	0.0055
55	0.0126	0.0126	0.0121	0.0114	0.0102	0.0081	0.0078
60	0.0150	0.0149	0.0145	0.0138	0.0128	0.0118	0.0102
65	0.0176	0.0175	0.0171	0.0164	0.0154	0.0142	0.0127
70	0.0203	0.0202	0.0198	0.0191	0.0181	0.0169	0.0154
75	0.0232	0.0230	0.0226	0.0219	0.0209	0.0197	0.0183
80	0.0262	0.0262	0.0257	0.0250	0.0240	0.0228	0.0214
85	0.0294	0.0293	0.0289	0.0282	0.0272	0.0260	0.0246
90	0.0327	0.0327	0.0323	0.0316	0.0306	0.0293	0.0279
95	0.0363	0.0362	0.0358	0.0351	0.0341	0.0329	0.0314

<第2表 水の膨張係数 K>

4. 水質基準

下記水質基準内の水を使用してください。水質基準を外れるとスケール付着、腐食等の不具合を生ずるおそれがあります。

業務用エコキュート 水質基準

水質基準内の補給水を使用してください。()は条件付で使用可能です。

項目	傾向		補給水基準
	腐食	スケール生成	
pH(25°C)	○	○	6.5~8.0※1
電気伝導率(mS/m)(25°C)	○	○	30以下
塩化物イオン(mgCl ⁻ /l)	○		30以下
硫酸イオン(mgSO ₄ ²⁻ /l)	○		30以下
酸消費量(pH4.8)(mgCaCO ₃ /l)		○	50以下(65以下)※2
カルシウム硬度(mgCaCO ₃ /l)		○	6.5 ≤ pH ≤ 7.5: 90以下 7.5 ≤ pH ≤ 8.0: 50以下
イオン状シリカ(mgSiO ₂ /l)		○	30以下(50以下)※3
鉄(mgFe/l)	○	○	0.3以下
銅(mgCu/l)	○		0.1以下
硫化物イオン(mgS ²⁻ /l)	○		検出されないこと
アンモニウムイオン(mgNH ₄ ⁺ /l)	○		0.1以下
残留塩素(mgCl/l)	○		0.3以下
遊離炭酸(mgCO ₂ /l)	○		10.0以下

※1pHが6.5を下回ると腐食懸念を生じます。

※2酸消費量はMアルカリ度とも言います。

酸消費量が50を超えると炭酸カルシウムのスケール付着を生じます。50~65では1回/年(目安)の薬品洗浄が必要となります。

酸消費量が65を超える場合は軟水器を設けカルシウム硬度を25以下に低減する必要があります。

酸消費量は冬期に値が上昇します。定期水質検査は極力冬期に実施ください。

※3イオン状シリカは強固なカルシウムスケールを生成させるおそれがあります。酸消費量50以下では()内の範囲で使用できます。

5. 長期間給湯負荷がないことがある施設における注意事項

(1)衛生管理

貯湯槽衛生管理のため給湯設備の運転スイッチは切らないでください。

長期滞留した貯湯槽および配管内の湯水は衛生上入浴等人体への用途に適しません。使用休止前には貯湯量を最小限に抑制し、使用再開前には給湯端より一度排水(雑用水として使用)し入浴等人体への用途には新しく貯湯した湯を使用してください。

注. 休止中に配管の水を抜いた場合には、使用開始前に水張り、エア抜き等の再試運転が必要となります。

この場合はメンテナンス業者*1に試運転を依頼願います。

(2)冬期凍結防止

外気温0°C以下では水回路の凍結防止が必要です。給湯設備の運転スイッチおよび配管凍結防止ヒータの電源は切らないでください。

寒冷地において休止中に電源が供給されない場合は、設備配管内の湯水を排水する必要があります。業務用エコキュートは排水が不十分な場合、熱交換器内が凍結により破損します。排水作業はメンテナンス業者*1に依頼ください。

また、使用開始前には水張り、エア抜き等の再試運転が必要となります。再試運転についてもメンテナンス業者*1に依頼ください。

*1.推奨メンテナンス業者:三菱電機ビルテクノサービス

耐(重)塩害仕様書

◆適用: この仕様書は、塩害地域に業務用エコキュート(CO2給湯器)を据え付ける場合に適用します。

1. 適用機種

A)耐塩害仕様

QAHV-N560C-BS形

QAHV-N560C-HWP-BS形

B)耐重塩害仕様

QAHV-N560C-BSG形

QAHV-N560C-HWP-BSG形

2. 適用環境

A)耐塩害仕様

潮風には当たらないがその雰囲気にあるような場所。

■具体的には

- ①雨で洗われる場所。
- ②潮風の当たらないところ。
- ③設置場所から海までの距離が約300mを超え1km以内。
- ④建物の影になる場所。

B)耐重塩害仕様

潮風の影響を受ける場所。ただし、塩分を含んだ水が直接機器にはかからないものとする。

■具体的には

- ①雨があまりかからない場所。
- ②潮風が直接当たるところ。
- ③設置場所から海までの距離が約300m以内。
- ④建物の表(海岸面)になる場所。
- ⑤設置場所のトタン屋根、ベランダの鉄製部の塗り替えが多い場所。

●海岸からの設置距離目安(設置環境により条件が変わります。)

①直接潮風が当たるところ

	設置距離目安			備考
	300m	500m	1km	
①内海に面する地域	耐重塩害	耐塩害	耐塩害	瀬戸内海
②外洋に面する地域	耐重塩害		耐塩害	
③沖縄、離島		耐重塩害		

②直接潮風が当たらないところ

	設置距離目安			備考
	300m	500m	1km	
①内海に面する地域	耐塩害	耐塩害	耐塩害	瀬戸内海
②外洋に面する地域	耐重塩害		耐塩害	
③沖縄、離島		耐重塩害	耐塩害	

◆注意事項

防蝕・耐塩害仕様機を使用した場合でも腐食・発錆に対して万全でなく、ユニットの設置やメンテナンスに対し、次の事項に留意願います。

1. 海水飛沫に直接さらされる場所に設置しないでください。
2. 外装パネルに付着した塩分等の雨水による洗浄効果を損なわないように、日除け等は取り付けしないでください。
3. ユニットベース内への水の滞留は、著しく腐食作用を促進させるため、ベース内の水抜け性を損なわないように水平に据付け願います。
4. 特に、海岸地帯への据付品については、付着した塩分等を除去するために定期的に水洗いを行ってください。
5. 据付時・メンテナンス時に付いた傷は、補修をしてください。
6. 機器の状態を定期的に点検してください。
(必要に応じて再防錆処理や、部品交換等を実施してください。)

WYN57-1022-B

三菱電機株式会社

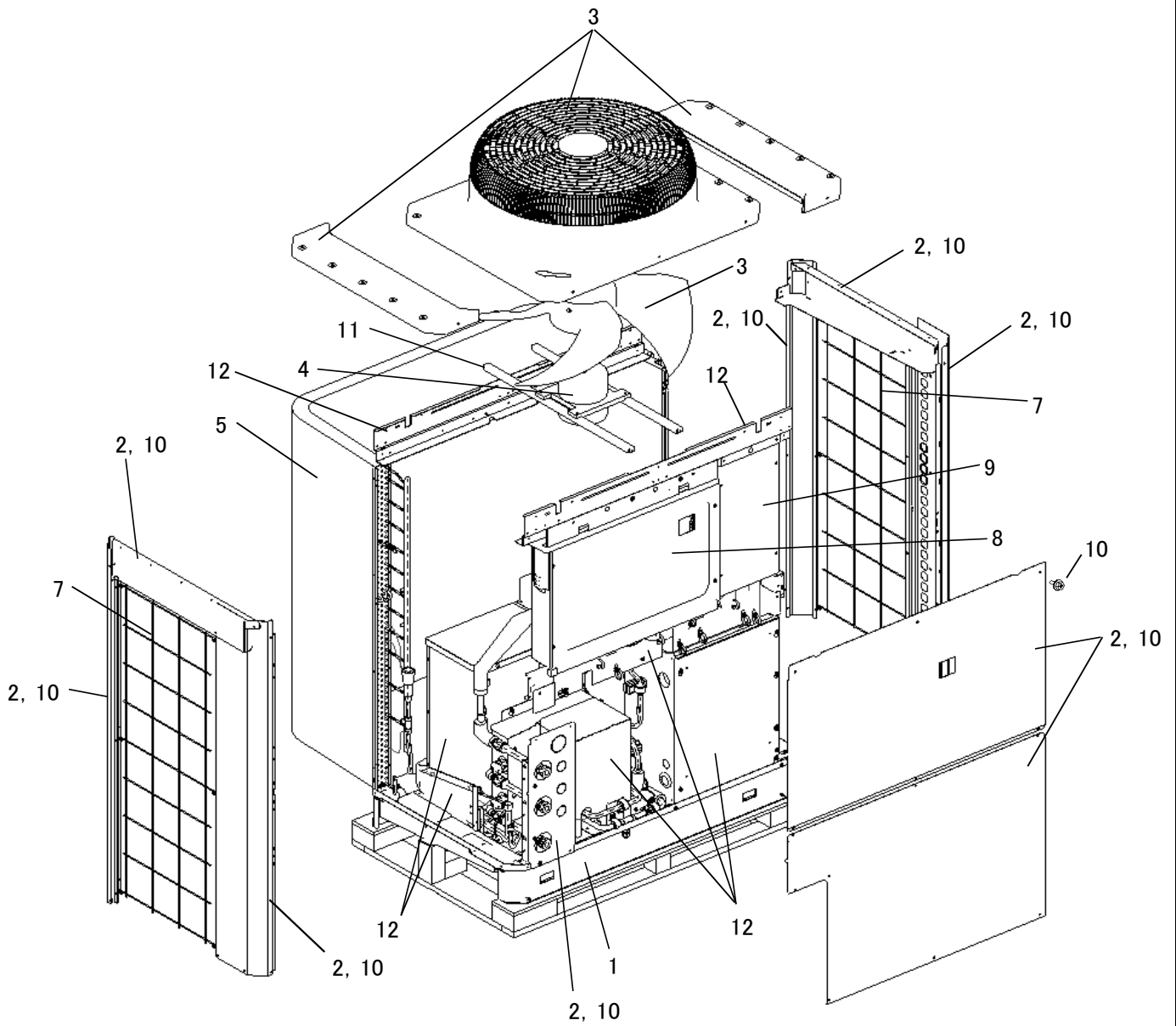
◆仕様一覧

部品番号	部品名	素 材	標 準	耐 塩 害	耐 重 塩 害	表面処理・部品仕様
1	台枠	合金化溶融亜鉛メッキ鋼板	○			標準塗装仕様基準（意匠面のみ塗装）
				○	○	ポリエステル粉体塗装(1C1B:全面)※1
2	外装パネル	合金化溶融亜鉛メッキ鋼板	○			標準塗装仕様基準（意匠面のみ塗装）
				○	○	ポリエステル粉体塗装(1C1B:全面)※1
3	羽根,ファンケーシング	樹脂	○	○	○	—
4	モータ	シャフト:S35C	○	○	○	シャフト:防錆着色クリアブル処理
5	放熱器	アルミニウムフィン	○			—
				○	○	高耐蝕性樹脂系表面処理
6	配管ロー付部	銀リン銅ロー	○	○	○	—
7	フィンガード	鉄線	○	○	○	ポリエチレンコーティング
8	制御箱組立(メイン)	溶融亜鉛メッキ鋼板	○			—
		溶融亜鉛メッキ鋼板		○	○	ポリエステル粉体塗装(1C1B)
		アルミ-亜鉛合金メッキ鋼板	○			—
		アルミ-亜鉛合金メッキ鋼板		○	○	ポリエステル粉体塗装(1C1B)
		—	○	○		プリント基板 防湿コーティング処理(一部)
				○	プリント基板 防湿コーティング処理(全面)	
9	制御箱組立(サブ)	溶融亜鉛メッキ鋼板	○			—
		合金化溶融亜鉛メッキ鋼板		○	○	ポリエステル粉体塗装(1C1B)
		—	○	○	○	プリント基板 防湿コーティング処理なし
10	ネジ(外装のみ)	軟鋼線材	○	○	○	亜鉛ニッケル合金メッキクロ処理
11	モータ台	溶融亜鉛メッキ鋼板	○			—
				○	○	ポリエステル粉体塗装(1C1B)
12	取付板,内蔵板金	溶融亜鉛メッキ鋼板	○			—
		合金化溶融亜鉛メッキ鋼板		○	○	ポリエステル粉体塗装(1C1B)
13	表示銘板	—	○			—
				○		「JRA耐塩害仕様品」
				○		「JRA耐重塩害仕様品」

その他の部品仕様は標準と同じです。
機種により一部仕様の異なる場合があります。
仕様は製品改良の為予告なしに変更する場合があります。

※1: JRA耐塩害仕様基準、JRA耐重塩害仕様基準に適合

◆準拠基準:「空調機器の耐塩害試験基準(JRA9002-1991)」: JRA(社団法人日本冷凍空調工業会)制定



WYN57-1022-B